

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

演劇の創作活動以外に、ワークショップという名の演劇講座を始めて、二〇年近くになる。初めは高校の演劇部の指導などが多かったが、いまは大学、大学院で教える他に、高齢者向けや障害者を対象としたもの、**ア** 海外の大学や演劇学校でも教えるようになった。

いまの私の本務校は大阪大学で、ここでは主に大学院生を対象に、演劇を通じてのコミュニケーション教育を行っている。

阪大は、医学部、工学部を中心とした関西ではお堅いイメージの学校で通っている。この大阪大学に、二〇〇五年、コミュニケーションデザイン・センターという教育機関が作られた。私は当時の鷲田清一副学長（のちの総長）から、このセンターの立ち上げを手伝って欲しくないかという誘いを受け、阪大に赴任することとなった。東京生まれで東京育ちの自分が、**A** まさか大阪大学に勤めるようになるとは思ってもいなかった。

国立大学であるから、採用にあたっては、総長面談というものがある。なかば儀式のようなものだが、居並ぶ総長、副学長のお歴々を前に、業績審査が行われる。とはいえ、学位もないし、**イ** 学者としての業績もない私だから、審査とは名ばかりで、すぐに雑談になってしまった。最後に聞かれたことは二つ。

「関西弁は大丈夫ですか？」

「タイガースのファンになれますか？」

演劇を創る授業

実際の授業では、**B** 様々な形の演劇ワークショップを通じて、コミュニケーションについて関心を持ってもらおうと考えている。念のためにあらかじめ書いておくが、演劇をやったくらいでコミュニケーション能力がつくわけではない。世間で言われるところの「コミュニケーション能力」なるものがそうとうに**①** 胡散臭いものであることも、これまでの各章で再三指摘してきたところだ。

私の役割は、せいぜい、特に理系の学生にコミュニケーション嫌いを少なくして、余計な**②** コンプレックスを持たせないこと。コミュニケーションの多様性、多義性に気がついてもらうこと。**③** あだと思っている。

原発事故の事後対応の混乱などを見ても明らかのように、科学コミュニケーションや医療コミュニケーションは、現代社会にとって科学や医学そのものと同等程度に深刻な問題になっている。そして**④** それを研究したり教育したりする機関も、各大学に少くも生まれている。しかし私たちのセンターがユニークなのは、その論議を行う以前に、演劇やダンス、あるいはデザインなどを実践経験することで、「対話」の前提となるような身体のセンスを身につかせようとしている点にある。

私自身、様々な授業を出しているが、コース（高度副プログラムと呼ばれる）の最後は、学生たちと一学期をかけて**⑤** 演劇を創るという授業を行っている。

阪大大学院の全研究科から学生が集まり、五人から八人くらいのグループに分かれて、テーマや場所の設定、登場人物の吟味、

注二 プロットの制作など、すべてを自分たちで行っていく。複数のグループがそれぞれ演劇を創っていくので、最初の二回の授業以外は、最後の創作発表まで、受講者全員が集まることはない。グループで一つのこと（たとえば登場人物と配役）を決めることに私と面談をし、許可が下りると次のステップに進める。

個別の専門研究、修士論文、就職活動と忙しい大学院生たちが、自分たちで時間を**C** やりくりし、プロジェクトを進めていく。そのこと自体に、この**⑥** 授業の意味があると私は考えている。異なる領域の人間が、限られた時間の中で優先順位を決めながら、ゴールに向かって進んでいく。多くの学生たちが、授業後の感想レポートに、「大学院に来てから、他の領域の学生とこんなに長く話したのは初めてだった」と書いてくる。

出来上がった作品も、なかなかユニークなものが多い。**ウ**、あるチームは、宇宙ステーションを舞台にして、日本人と中国人とインドネシア人の宇宙飛行士が、どのタイミングで新年を祝うかでもめるというコメディを作った。メンバーの中には、地球物理学を専攻している学生もいて、時々専門用語を生かした独特な会話もみられた。

これまでの数年間で一番面白かったのは、理系の**注二** ポストドクばかりがアルバイトで集まるファミレスという設定で、厨房の中で高分子化合物だの非対称理論だの理系の専門的な話が延々と続けられるというものだった。お皿は素数でしか出せないとか、それぞ

れの店員にこだわりがあって、それ故にこの店は⑦とても暇になっている。さらに、この店の店長が、かつて将来を嘱望された天才物理学者だったのだが、教授と喧嘩して大学を辞めたという設定も秀逸だった。理系の男子ばかりが一つのグループに集まってしまったハンディを、うまく創作に生かした。

注二 プロット 小説脚本などの筋。筋書。構想

注三 ポストドク ポストドクター、博士研究員

(平田オリザ 著 『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』より)

問一 空白部ア〜ウに当てはまる言葉を次から選んで番号で答えなさい。

- 1 たとえは 2 したがって 3 おそらく 4 あるいは 5 さしたる 6 つまり

問二 傍線部 A、B、C、について、品詞を答えなさい。

問三 傍線部①について、「胡散臭い」の意味を答えなさい。

問四 傍線部②について、「コンプレックスを持たせないこと」を言い換えて書きなさい。

問五 ③ あにはどんなことが入りますか。答えなさい。

問六 傍線部④について、「それ」が指し示すことがらを答えなさい。

問七 傍線部⑤について「演劇を創るという授業」の目的を答えなさい。

問八 傍線部⑥「授業の意味がある」についてどんな意味があったのか答えなさい。

問九 傍線部⑦「とても暇になっている」とはどんな状況なのか、答えなさい。

問十 問題文を読んで、「コミュニケーション能力」について筆者が言いたいことはどんなことだと思いますか。答えなさい

二、次の文の主語と述語を答えなさい。

・概して日本人は、こういうことを他人に言わない。(齋藤 孝著 1分で大切なことを伝える技術 より)

三、次の漢字の部首を答えなさい。

① 別 ② 痛 ③ 道

四、カタカナ部分を漢字で書きなさい。(送り仮名が必要な場合もあります)

- ① 鼻汁をキユウインする ② 想像をメグラス ③ ビルのコウゾウについて説明する
④ マシンの感染が拡大している ⑤ 考えをモリコム

五、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ① 事故を回避する ② 嚙下力が弱い ③ 終末期医療の従事者
④ 理路整然と伝える ⑤ 生活の規範

小論文問題

美原看護専門学校 二〇二四年度

推薦入試

以下の題について六百字程度で論じなさい

題 「オンライン診療のメリット、デメリット」について

※ 所定の用紙に「題」と「受験番号」と「氏名」を記入すること。